京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年紀元二千五百七十年
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵税一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久馬太
印刷人 松久神一郎
發行所 京城西署西小門通（電話六六三） 京城新報社

條約改正と關税問題

五州生

昨紙報ずる處に依れば、久しく行悩み居たる關税懸案は、駐英加藤大使と英外相サーグレーとの間に、内交渉成立し、圓滿に、解決し得べき、曙光を認めたるを以て、小村外相の掛冠説も、沙汰止みなるべしといふ、吾徒は萬腔の、同情を以て、小心翼々たる外相の苦心を諒察し、事件の平和に終決を告げ得べき程度まで、樽俎の間に折衝したる、外務當局の勞を多とするもの也、元來這般の、關税問題の如きを以て、外交上の抗議を、容れらるゝが如きは明に當局の失態にして、原案編成の、任にありたる、大藏當局の、粗漏なるは勿論統轄の大任を帶ぶる首相の遺策なるや亦明かなり。

若し夫れ、小村外相に至りては只原案に基きて、交渉の任に當りたるもの這般の失態を釀したる重き責任を負擔せしむるは多少酷なるものありて存す而して内閣は如何なる手段に依りて是を解決せしめんとするが聞くが如くんば近く實行せらるべき條約改正の機會に於て帝國の面目を失はざる程度を以てすべしといふ、果して然るか。……謂ふ迄もなく關税は議會の協賛を經たる確的のものなり、對外交渉の手段は之を政府側の立場よりすれば更に改正案を提出して議會の協賛を求むるか、或は所謂條約締結の權能に依據して自由に之を改廢すべきかの二途を出でず而も議會に對し改正案を提出して之れが協賛を求めんとせば在野黨の難關あるを如何せん、桂首相にして、内閣の運命を賭して之に肉薄するの勇氣ありや否や虎視眈々隙あらば乘せんずる、現下の形勢と、内閣の貧弱なる興望とを以てしては到底首相の怪腕を以てするも豈に好く快刀亂麻を斷つを得んや果然、内閣は英國との内交渉に於て妥協、交讓の望あるを奇貨とし正に調査中に在る該條約改正の機會に於て之を解決せしめんとす。

海龍城鐵道問題（下）

▲彼我の主張（續）　然るに我主張は專ら開原の商利を維持發達せしむるに在り該鐵道をして海龍城より山城子を經て直ちに開原に達せしめ依て鐵嶺に至るなからしめんとす而して右海龍城開原間若し不可なりとせば右東幹線を上でして海龍城奉天間を連絡せしめんとするものなり截言すれば清國側の海龍城、山城子、鐵嶺を連絡せんとするに對し我は海龍城山城子、開原（若しくは奉天）を連絡せんとするに外ならず

▲彼我の難點　然れども清國側の主張は（一）少くとも豫定線が開原近郊鐵嶺間に於て十數哩の間滿鐵と平行し依て條約違反となるを免れず（二）而かも枉げて奉天又は開原を採らんか共に遼河を距る稍や遠くして其水運を利する能はず之に對し我主張にして若し容れられざらんか東は海龍城西は昌圖一圓の雜穀は皆鐵嶺に集中して馬蜂溝より遼河を下つて營口に入り依て滿鐵の貨物に大減少を來すべき必勢に在り而かも清國今回の計畫の由來は滿鐵の爲め從來遼河上の雜穀貨物を奪はれたるに依り其等の利權回收上已むべからずとしたるに在るを以て折角の計畫も我が主張を容るれば結局徒勢に歸するに至るべく即ち清國が海關線よりも里程に於て十數哩も多き海鐵線を採らんとするの必ずしも理由なきを知るべし（完）

●沿海州と鮭子

東洋物産株式會社（在新潟）支配人立川甚五郎氏の談に曰く沿海州一帶に産する鮭の鈴子は母魚百石に付平均三十フートの割合にて一漁場の漁計千五百石とし六百フートを得るに從來は之を石油鑵一函二圓宛にて露國漁業者に賣買し之が製造に就ては注意を拂はざりしに反し露國漁業者は之を鹽漬とし盛んに露都に輸送せるが其産額四五千フートに過ぎざるより一フート上等十二圓中等九圓下等八圓の相場を保ちつゝありしに本年に入り俄然産額を激增しニコライフスクにて二万フートオコックカムチャッカ方面にて千三百フートの製出あり生産過剩に加ふるに製造時期の高温なりし爲腐敗を來し又も失敗に了れりされ同製造は將來有望なるを認めしに付我社は本年始めて露國製造者を雇聘し東京水産講習所卒業生を助手としてカムチャッカにて露國式の製造を試み

文苑

●秋の日

碌々庵

秋の日が來ると、人の心にも陰欝な風が吹く、詩人は、秋あゝ秋だ……と冷たい涙の出る煩悶の聲を出す。秋の日は自然にばかりで無く人間の上にも來る、寂寥なる日影。木の葉が落ちる。落た枯葉を風が吹く。枯枝がから〳〵と聲を出す。

樹から落ちたる秋の葉は
風にも失れて狂い出す
何處ともなく飛んで行く
枯葉を吹きし秋風は
落葉の如き身にぞ吹く……

と斯んな調子の歌を林の中に立つて、敗殘の魂が唱つて居るのが、默々たる天地に轟いて其れが細い悲しい聲となつて微かに囁くやうに聞こゑて來るが如き心持がする。

漂泊の旅にさまやう心がこの聲を聞いたら何んな心持がするだらう。唯ある秋の日斯んな聲を聞いた一つの魂が枯木の間を彷徨いて居た、魂は現實を想い、過去、未來を想い、憔無い人生の運命を想い、其の涙の涸れた心を以て自然に歸らうとして居た。人間はこれを死と云ふ。

秋は衷れッぽい、陰欝だ、惡魔が跳梁して居る、が、其の間には小鳥と云ふやさしい女神が居る、そして輝く聲で唱つて人間の切ない思ひの雲を吹き散してやる。

ちよと此の迷ひる魂が徐々と消ね去ろうとした時、唱い出した。

廣い世界の戰場に
人生の露營に
驅られて默する牛ならで
競爭場裡の勇者たれ……

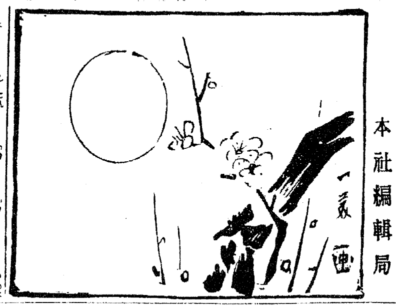
この聲を聞いた魂は、瞳を濕し輝かして歎しさうに、胸に漲る聲を張り上て叫んだ。

勅題「寒月照梅花」和歌募集

選者 九皐館去留

何首にても隨意、用紙用箋類も又御隨意の事、締切期限十二月廿五日、發表は四十四年一月元旦の本紙上を以てす、同好の士奮つて投詠せられんことを希ふ

十二月二日　本社編輯局



俳句

●如月會納會句集（其の一）

むら 撰

眼に近き山の景色や今朝の秋　萩水
村雨のあとや軒端に霧せまる　同
鳥來て鳴くや墓前に秋の立つ　彌生
草に樹に映るや今朝の秋の色　不美女
電燈のあたりは白し今朝の秋　彌生
宵闇を戻ればそはの花しろし　萩水
河中に町の出來たる花火かな　ひさし
朝寒を借衣につゝむくさ女哉　紅電
蟷螂や風にもいかる身の構へ　萩水
鬼灯や京は水よしべにもよし　紅雪



山中鹿之助

第卅四回　西尾麟慶演

茲で中御門中納言殿が武士の門出立派に御供揃ひの用意を御命じになりました、鹿之助は途中行々しく參るは好しからずと御辭退を致しまして、僕一人を連れて尼子方へ乘込事に決しました又數之卿よりは別段に御使者を以て、細々と此事をれ書送りに相成りましたから、義久は鹿之助が到着するを相待て居りまする、日ならずして鹿之助は雲州富田の城に乘込で參ります、早速義久に面會を致します、尼子股肱の臣等夫へ列席致し、一門の尼子九郎左衛門等まで居ながれ綺羅星の如く、鹿之助夫へ出で對面の挨拶を終つて其日は休息致します、是より毎日登城致しますが年が若ひので一同の家來達も輕蔑致して居りますが、大量の鹿之助一向頓着致しません、然るに茲に鹿之助が力を現はし諸人の尊敬を受る樣に相成



瘦せ衰へますが何んと云ふ病症か判りません、スルと多くの女中達が　女「葉末さんの御病氣はアレは斯うなんで御座ひますヨ　○「何うなんで御座ひます　女「毎夜々々忍び男が參りますので段々病氣が重る計り　△「男の來る病氣なんで御座ひますか」と口々に様々の事を申します、遂に是が奥方の御耳へ這入る事になり、御殿へ忍び男が來る抔と云ふ事があつて見れば、是れ家事不取締になると、夫々吟味に相成りましたが何分判りません能々尋ねて見ますると夜の丑三ツ頃に相成ると、彼の葉末が椽側の所へ來つて雨戸を開けまして佇んで居ると彼方の庭前より一人の若衆が夫へ來て、手に手を取て葉末の閨に這入ります、此の事を認めましたものがあつて奥方へ訴に及ぶ、夫より早迷葉末の部屋をれ取調に相成る、是ぞと云つて證據になるものは無い、一枚の短册が落てありました、見ると

たはれでと云ひてす君の怨めしや
とれかはうそを我はつくべき

とありまして是は何者の手跡だか判りません、闇よ葉末が忍び男を引入れた

葉「た泉水の主で御座ひますと、申しました、一同も大きに呆れまして是は葉末が亂心を致したのであらふ、と云つて遂に其忍び男を探し出す事が出來ません、さりとて其儘に捨置く譯には參りませんから、此事を御表へ持出す事になりました、尼子家の家來が之を聞きまして、之を此儘に闇に致して置く時は自ら他國へ聲ねて、御當家の御名折となるべし、武門の名折と相成つてはならん、是非其曲者を見出して屹度其罰を申し付んければならん、尤もの次第なりと云ふので、御近臣方が申合せて腰元葉末に尋ねますと、只だ

大池の主なりとのみ[illegible]ない話で御座ひます[illegible]る刻限はと尋ねます[illegible]ば必ず來る、然ば今[illegible]て生捕て正体を見あ[illegible]と其夜三四人の者が[illegible]りますと云ふ、其人[illegible]衛門、齋藤大之進、[illegible]ふ連中が腰元葉末の[illegible]下に二人と八方へ眼[illegible]スルと丑滿の刻限[illegible]

東京電報(十一日)

▲閑院宮殿下御發途 沖繩縣下那覇に於て催さるべき赤十字社支部總會に臺臨せらるべき閑院宮殿下並に同地愛國婦人會總會に臨席せらるゝ同宮妃殿下には今十二日午前九時五分新橋發列車にて御旅程に上せらるゝ停車場には各皇族同妃各殿下文武官民の御見送盛なり殿下御一行は横濱より軍艦滿洲に御搭乘の筈なるが今回の御資格は同社總裁として臨席せらるべきにより皇族旗を掲揚する事なかるべしと

▲各殿下の御昇進 陸軍步兵少尉にて近衞師團に御勤務中なる朝香宮鳩彦王殿下同久邇宮成彦王兩殿下には中尉、又陸軍砲工學校御在學中なる砲兵少尉北白川宮成久王殿下は砲兵中尉に來二十六日頃御昇進あらせらるゝ由

▲別當家令の移動 長崎調度頭以下宮内官に左の如く移動ありたり
敍任別當(高等官二等) 閑院宮附被仰付 調度頭 長崎省吾
任家令四等 東久邇宮附 侍從子爵 有馬純文
任内匠寮主事 (帝室會計審査官) 林恭次郎
任宮内書記官 式部官 松根豊次郎

▲總督附武官 朝鮮總督府附武官は今後大佐中佐を以て任ずべく右發表期は來る二十日頃なるべし

▲陞敍五百十八名 十日宮中南溜の間に於て敍位式を行はせられ伊東元帥以下華族文武官五百十八名に對し夫々御沙汰ありたり其重なる者左の如し
敍正二位 從二位勳一等功一級 伯爵 伊東祐亨
敍正三位 從三位勳一等 男爵 菊地大麓
敍從三位 正四位 男爵 川口武定

▲安奉線警察費 同線警察費は約九萬圓を計上せり

▲第三艦隊の動靜 新に第三艦隊に編入されたる對馬は川島司令官座乘し十五日舞鶴出港秋津洲は中旬頃佐世保出港根據地たる上海に向ふ同地には目下須磨、宇治、隅田の三艦あり本月下旬全部集合の後ち部署を定めて長江沿岸の警備巡航の途に就く筈なり

▲國民黨代議士總會 國民黨に於ては來る十九日代議士總會を開き院内總理、衆議院幹事及び代議士會正副會長等の人選を行ふ筈なり

▲政友會の態度 政友會は韓國併合前後に於て

公人私人
△西部茂夫(總督府判事)十一日蔚原より入京佐藤旅館に投宿
△秋本豊之進(平壤府尹)十一日平壤より入京山本旅館へ
△藤島字太(キカイナタイムス記者)十一日釜山より入京山本へ

臨時議會を召集せざりしは非立憲なりとのことは未だ議決せざる▲總督に緊急勅令を以て制令權を委任したる件及び總督を特に武官に限りたることは不承認なりと決定せり

▲井上大使の一行 本年九月智利國獨立紀念祭に特派せられたる全權大使井上勝之助氏は十一日大連發の天草丸にて十四五日神戸着十五日歸京の筈なりと

▲明年度の特別演習 明年度の陸軍特別大演習は既記の如く福岡縣下に於て擧行する豫定にて參謀本部にては宇都宮少將計畫委員長となり目下計畫中にて遲くも一月下旬に完了二月十日迄に御裁可を經三月十日迄に一般方略及團体集合地日限其他の規定を參列各師團長に寄令する筈なりと

▲警官の渡鮮 警察官二百四十名渡鮮せりと

▲三浦安氏の逝去 元貴族院議員たりし三浦安氏は逝去せり

伯林電報(十二日)

▲大伯林市の人口 本年の調査に依れば大伯林市(新に伯林に編入せられたる市街地の總稱)は人口三百六十九萬一千にして昨年より五十萬一千八人の增加なりと

地報

●總監の清公使招宴 山縣政務總監は十日夜朝鮮視察として入京したる東京駐劄清國公使汪大燮氏一行を主賓として在京城清國總領事及仁川清國領事、大久保軍司令官、石塚、倉富、宇佐美の各部長官、俵副總裁、明石警務總長、市原韓銀總裁、各局長荻田、藤波、本多、入江、池邊の諸氏三十餘名を十一日午後七時より總監官邸に招待し晩餐會を開きたり

●清館事館の招宴 明十三日午後六時より在京城清國領事館にては清國公使歡迎を兼ね山縣政務總監、大久保大將、各部局長官以下三十餘名を同領事館に招待し晩餐會を開く筈

●總監公使の訪答 昨十一日午前十一時東京駐劄清國公使汪大燮氏は山縣政務總監を大和町同官邸に訪問し同三十分大久保軍司令官を同官邸に訪問せられたるに對し山縣政務總監には同十二時清國領事館に正式の訪問を爲したり

●諸官署執務時間改正 朝鮮總督府及所屬官署の執務時間十二日附總督府令第五十九號に依り左の通變更
三月十一日より三十日迄 午前九時より午後四時に至る但し土曜日は午後一時迄とす
五月一日より六月三十日迄 午前八時より午後四時に至る但し土曜日は午後一時迄とす
七月一日より九月二十日迄 午前八時より正午十二時に至る
九月二十一日より十月三十一日迄 午前九時より午後四時に至る但し土曜日は午後一時迄とす
十一月一日より翌年三月十日迄 午前十時より午後四時に至る但し土曜日は午後一時迄とす
二、朝鮮總督府所屬官署職員にして現業に從事する者の執務時間は當該官署の長官之を定む
三、急務繁劇の場合に於ては前記の時間に拘はらず執務す

●中樞院議事規則 本日總督府訓令第六十五號を以て總督府中樞院議事規則を發布されり同規則は第二十二條より成り居れり

●支那街交通遮斷 哈爾賓支那市街ブチヤテンに於けるペスト豫防に關し露國は支那官憲が注告を用ひたるを以て派遣醫師を召還し去る六日より斷然露租借地間との交通遮斷を決行すべく委員を召集せり清國側にては露國の干渉を潔とせず東三省總督派遣の我醫軍醫をして完全なる防疫を爲す事となせり

●米清滊船會社 米國實業團の重なる者數名は上海にて滿洲、天津等の商務總會代表者と密議し米清銀行を建設することと兩國に商品陳列所を置くこと互に視察員を派遣することと米清滊船會社を起すことを決議せり銀行資本金は一千圓にして兩國は其半分宛を負擔することと滊船會社は現に沙市、支那間を往來する汽船五隻を以て之に充て尙は五千噸の汽船一隻を製造して支那國旗を掲ぐる筈なりと云ふ

●日清官憲の接觸 滿洲鐵道沿線附近の行政施行區割上に就ては從來日清警官の間に衝突を起すこと屢々あり殊に本年七月以前に於ては幾多大小の衝突を爲し常に紛擾絶へざりしが爾後警察權の施行に關する覺書を交附してより昨今に至りては全く衝突紛擾を根絶するに至り清國警官が事務を施行する際は一々我官憲の承諾を求めて鐵道沿線地帶に入るを以て目下は自然に行政區劃を分立せる狀態にあり殊に過般掏鹿事件の結果錫總督より各知府に對して内訓を發したる以來一般の清國官憲は頗る温和なる態度を執るに至り昨今に於ては靜穩にして且つ日清官憲は漸次接近し融和の傾向ありと

●竹邊灣燈臺新設 江原道竹邊灣の北角龍湫岬に左記燈臺を建設し本年十一月二十日以後毎夜點火さる
一位置 北緯三十七度三十九秒東經百二十九度二十五分十六秒(水路部出版第三〇五號海圖)
一構造及着色 混凝土造八角形白色
一自基礎至燈火 五丈一尺六寸
一自水面至燈火 十六丈二尺
一等級及燈質 第四等單閃白色毎廿秒時間に一閃光を發す
一明弧 磁針方位南十二度より西を經て北二度西まで百九十度間右方位は海上より燈臺に向て測定す
一光達距離 晴天の夜十九浬

●大同江浮標撤去 結氷の爲め船舶の航行不可能となるを以て十二月上旬以後該航路に於ける浮標全部を撤去

●漢江浮標の撤去 漢江航路は結氷の爲め船舶の航行不可能となるを以て十二月上旬該航路浮標全部を撤去す

●霧笛吹鳴の停止 魚隱島燈臺に設置の霧笛は當分の内吹鳴を停止す

●滿鐵明年の建築 滿鐵會社にては本年度南滿各地に於ける諸般建築に對し約三百萬圓を投じたるが明年に於ては各所の大建築物建造の計畫あるを本年よりヨリ以上の費額を投ずるならんといふ其主要なる建物は今日略定せるものとしては大連の埠頭事務所、埠頭の耐火倉庫の長春の停車場の鐵骨上屋安奉線各驛停車場の建物等なるが此外未定に屬すれども大連停車場、大連醫院等も多分明年に於て着手するに至るならんといふ

●鮮人取扱方調査 鴨綠江北岸にある朝鮮越墾民の取扱に就ては日本人同樣之を取扱ふ事の清國官憲にとりて甚だ迷惑なるべきを察し先づ清國官憲の主張を容れて此程間島副領事を該越墾區域に派し目下其情態につき大規模の調査中なれば其結果を俟ちて何分の回答を與ふべしと

●木浦の棉花近況 本年度同港棉花の廻着高は十月百六個十一月千二百二十個のみなれど十二月に入り去七日迄に已に八百廿六個の廻着あり爾來一日二三百個の廻着を見るの日もあり漸次盛況を呈しつゝあるを以て當業者は年度末迄には約二万個の廻着は確なるべしと觀測しつゝあり因に陸地棉の産額は昨年度は四十萬斤を越へざりしが本年度は最早今日迄に廿五萬八千斤の廻着あり同作附反別及び作柄より豫想するも本年度の産額は優に八十萬斤を超過するに至るべしと云ふ

●南浦の大豆輸出 十一月中に於ける同港大豆、小豆の輸出は非常に盛んにして斯界に於ては空前の賑盛を極めたることは已報の如くなるが今月に入りてよりは漸次輸出額減少し昨今は寒氣甚だしく各地方の小河川徐々結氷するに至りたるを以て各方面よりの出廻りも減少し漸次市場は衰退するに至れり然れども去月の三分の二位ゐの輸出はある可き見込なりと

▲中村光吉(韓銀平壤支店長)同平壤行
▲岡十郎(東洋捕鯨會社長)同釜山行
▲楠秀太郎(太平生命取締役)同上釜山
▲秀吉丸 十三日大阪より入港
▲信濃川丸 同 大阪より入港
▲漢城丸 同 芝罘より入港
▲漢城丸 同 横濱へ向出港

▲大阪期米▼
▲前塲● 十二月寄十四圓六十五錢止六十五錢▲一月寄[illegible]▲二月寄十五圓〇三錢止十五圓〇二錢
▲後塲● 十二月寄十四圓[illegible]▲一月寄六十七錢▲二月寄十五圓〇二錢

▲仁川米豆取引▼
▲前塲● 十二、一月寄九圓七十八錢▲最高七十八錢▲最低七十三錢▲二月出來不申
▲後塲● 十二、一月寄九圓七十二錢▲最高七十六錢▲最低七十二錢▲七十五錢止延着▲二月出來不申

●平南貨車拂底 鎭南浦通信 日來俄に寒氣嚴烈を加へたる結果去七日大同江初めて結氷するに至り之と同時に江岸に堆積しありたる輸出穀類は平壤運送店に於て鐵道輸送に勉めたる爲め一時其跡を絶ちたるも其後再び千五百石の穀類を堆積するに至りたるを以て目下鐵路平南線に依て輸送しつゝあり而して自後尙十五六日迄は繼續し約八百石以上の輸出を見るべく斯くて本年に於ける穀類の輸出を終了する由なり因に去る四日以來七日迄に鎭南浦に入港したる大阪商船四國成興大智筑後川の四隻にて輸入したる約五百噸の貨物は水路結氷の爲め平南線にて毎日平壤へ輸入しつゝあるも何分貨車拂底の爲め其無據く五十噸位を限り輸送しつゝありと

●鎭南浦十八支店 十八銀行が鎭南浦實業家諸氏の希望に從ひ同地に支店を開設するならんとは豫てより噂せらるゝところなるが愈來春早々支店開設の事となる由なり

●民團議員改選に就て 居留民團議員の任期滿了者資格の消滅に來年一月三十一日なることは前號所報の如くなるが爲めに各民團に於て同三十一日に改選を行はざる可からざることは從前の例に倣ふべきものにして内務部當局者の意志としては一月三十一日限り民團議員の資格を失ふ限り二月一日より新議員によりて諸件を處置せざる可からざるを以て二月一日に改選を行ふとすれば或期間議員なきこととなり其改選中に緊急事件の惹起したる場合には之れを處理する責任者を失ふことゝなり面白からざる現象なるより前例に於ても資格を失ふと同時に之れが改選を行ふことゝなり居れば改選期日に關しては別に當局より令達することを爲さゞるにより民團にては今十二日に選擧を行ふは當然なりといふも民團側にては之れを誤解し二月一日を以て改選を爲す心算にて本十二日漸く選擧名簿の調製に着手し居れる由なるが當局の意見は無論當を得たるものにして民團の解釋は稍々見當違なりといふ(京通)

●選擧名簿調製上の疑義 來春匆々行はるべき京城民團議員選擧期に就ては内部當局者と民團側と見解を異にしつゝあることは別項記載の如くなるが民團側の主張の如く二月一日を以て選擧を行ふとせば明十三日を以て選擧資格を生じたる者は即ち有資格者となるも内部當局者の主張の如く一月三十一日を選擧期日とせば今十二日迄に資格を具備するにあらざれば無資格者たるを以て名簿調製上に就き支障を生ずるを以て交渉を開始すると云ふ因に去十月八日選擧する筈なりしときの名簿に依れば選擧有權者は總數五千六百二十九人にして内官吏二千六十六名なりしが官制改革の結果多少減少したるも之と同時に十月以後に於て民間側に權利を生じたる者あるを以て十月現在と大差なき見込みなりと云ふ

▲相塲電報(十二日)(明治町西村支店着電)
▲大阪株式(二月限)

	(前塲)	(後塲)
神戸寄	三八、一〇〇	三八、〇〇〇
電報引	三八、〇〇〇	三七、〇〇〇

●税制調査の總會 當民團の税制調査會は尙は五名の委員を增加すべきよしは既報の通りなるが彌十日後野長七、菅原大太郎、田村義次郎、象古禮藏、進辰馬の五氏に囑托し是れにて總員十五名となりたるが十四日頃總會を開きそれより實地調査に着手すと

●仁川商業會議所 仁川商業會議所にては十二日午後一時より同所に於て役員會を開き左記の件を協議せし筈
四十三年度收支決算報告の件
穀物輸移出税撤廢請願并に母國穀物移入税撤廢に關する件

●湖南平元兩鐵道の財源 朝鮮の湖南平元兩鐵道の來年度敷設費年度割は四百五十萬圓にして總督府特別會計の内一般會計より補充すべき一千二百萬圓を其財源に充つべしとの事なるも京釜鐵道の敷設費財源と同じく韓國銀行より一時借入を爲す事となる可し

●關釜連絡船の改良 關釜連絡船の件に就ては既に數次報じたる所なるが鐵道院は來年度に於て三千噸内外の滊船を建造する事とし目下設計中にて明年春頃迄には三菱川崎兩造船所の内に注文すると同時に下關に棧橋を設置すべく尙明年度に於ても二三千噸の連絡船を二隻新造する事に内定したる由右竣成の上は現在の如き貨客混合輸送を廢止し分離輸送を爲し航海數を增加すると同時に時間も現在の十一時間を九時間位に短縮敏活に輸送を行ふ計畫なりと又た現今の運賃も高きに失するを以て新造船竣成の上は引下げを爲すべしとなり

●大連航路の競爭 本年北清に於ける豆粕の産額は昨年に比して殆んど倍額の豐收なるより大口の輸出尠からず從て海運界に於ても社外船と大坂商船との競爭となり昨今出帆の社外船は錦江丸、不動丸、昭朝丸、大安丸の如き總て大連にて同品積取の爲め出動するものにして運賃は頗る低廉なるより同航路獨占なりし大坂商船は爲に大打擊を受けつゝありと

●電報料金引下成績 本年十一月一日電報料金改正後一ケ月間に於ける京城郵便局發信の有料電報通數及料金を聞くに左記の通りにして前年十一月分に比較對照するに通數に於ては一割一分の增加を來せるも料金は一割八分强の減額を示せりと云ふ

	通數	料金
四十三年十一月	一〇、八二一	六、〇五九・七三〇
四十二年十一月	九、七四〇	七、四〇六・四三〇

	同	同
▲京坂	五九、六〇〇	五九、三〇〇
電鐵	五九、[illegible]〇〇	五九、〇〇〇
▲鐘淵	一〇四、四〇〇	一〇四、二〇〇
紡績	一〇四、六〇〇	一〇四、二〇〇
▲日本	九七、六〇〇	九七、五〇〇
郵船	九七、九〇〇	九七、九〇〇
▲東京	一三三、六〇〇	一三一、四〇〇
株新	一三三、[illegible]〇〇	一三二、〇〇〇

	同	同
▲大坂株式	一四一、八〇〇	一四〇、九〇〇
▲同直取引	一四〇、六〇〇(不明)	一三九、六〇〇

●特科隊の上陸期 去る七日仙臺を出發せる同地に向けたる特科隊は今十二日午後釜山に上陸の筈にて明十三日午後二時三十分釜山發十四日午前八時龍山に着尙は青森を發して元山に向ひたる一隊は來十五日上陸の豫定なりと

●鐵道擔保價格改正 鐵道院にては今回地方債の擔保價格を左の通り改正したりと云ふ
▲大阪市築港公債(額面百圓に付)八十三圓▲同水道公債(同)八十三圓▲長崎神戸市水道公債(同)八十一圓▲小倉市水道公債(同)八十一圓▲勸業債券(自第四回至第廿二回)(額面廿圓に付)十六圓▲同(第十五回第十七回)(同)十五圓▲同 自第二十三回至第二十五回(額面十圓に付)七圓▲同 自第廿六回至第卅二回)(同)八圓▲同(第廿七回)(同)九圓▲貯蓄債券(自一號至る號)(額面五圓に付)四圓▲同(同號)(同)四圓五十錢▲拓殖債券(第六回)(額面百圓に付)八十圓

●新橋下關急行列車 朝鮮併合以來内地朝鮮間の旅客急激に增加せると共に新橋下關間現在の鐵道列車編成にては不便尠からざるを以て西管にては同區間に急行列車の增發を計畫し先程鐵道院に稟申する所ありしが右は同院に於ても必要を感じ居れる矢先とて直に調査に着手し來年二月初旬より愈々實行する事とせり右增發列車は差向新橋神戸間一二等急行第一第二兩列車を新橋より下關に直通せしむると共に現行の京都下關間各等列車第四十一四十二の兩列車を二三等急行列車に改むる事に決定せり

●有吉長官の東上 有吉總務部長官は十一日夜南大門發列車にて東上せるが其用向は寺内總督に政務報告の爲めにて本年中に歸任の豫定なりと

●榊原參謀長歸期 目下安東縣地方を視察中なる榊原少將は來る十四日歸任の筈なりと

●宇佐美長官歸期 平安南北道巡視の爲め新庄通譯官及び應松屬を隨へて出張中の宇佐美内務部長官は十二日午後十時二十分南大門驛着列車にて歸任の筈なりと

●關屋局長の動靜 内務部長官と共に出張中なる關屋學務局長は昨日鎭南浦に於て長官と分離し本十二日更に平壤に到り同地の各學校を視察中なるが明日は黃州を經て開城着の豫定なり

●中大路部長歸廳 檜垣道長官代理として地方巡視中なる同中大路内務部長一行は豫定の如く十一日江華島より仁川に着十二日は富平に一泊し明十三日歸廳の筈なり

●藥師川警務部長 道長官代理中大路部長一行と共に管内巡視中なる藥師川警務部長も同じく十三日歸任の筈

●兒島文六氏來遊 滿州吉林地方に明治三十一年以來移住し同地方の事情に精通せるを以て名ある兒島氏は一昨日當地へ來遊し目下朝鮮新聞小幡氏方に滯在中なり

●中村檢事長移轉 中村檢事長には今回南大門外裁判所官舍第十號に移轉す

●李晩奎氏の入京 朝鮮留學生監督李晩奎氏は墓參の爲め十一日入京せり

▲京城手形交換高▼

	枚數	金高
十二月十二日	四六一	一三九、二三一、四〇

▲治外法權▼ 我東宮殿下には英新帝戴冠式へ御參列の爲め御渡英相成るならんと承る、若し事實とならんか之れ昭代の盛事にてしまた開闢以來の盛事ならん▲ソコデ茲に考へねばならぬ事は殿下へ供奉の人々だまづ何人を差置ひても其第一に數ふべきは我國寶の大隈伯だ▲國寶大隈伯は明治の聖世が生める世界的偉人だ、此偉人をして我未來の英主たる皇儲殿下の御外遊に供せしめんか、同盟國の新君主は勿論、カイゼルもルーズベルトも皆一齊に歡迎せん▲民團議員の改選期もウヨウ決定したらしいが、コウ無くてはならぬ筈だ、一体當局者と云ふ先生達は平常何をして居るのか、民團をドウする位の事は併合前にチヤンとキメて置くべき筈だ、ヤレヤレ何にしても手數の掛ることだ▲本派本願寺は岐阜縣下で信徒一人割に八圓づつの喜捨金を募つて居るソウだ、一人割八圓と云へば我京城民團税の頭割よりは遙か上だ、ダカラ本願寺は碌でなしと云ふのだ▲我内務省は來年度から職業紹介をヤルとの事だ、職業の紹介は内地許りでなく朝鮮でも必要の事だ、我京城の府廳や民團役所でヤッたら公衆の爲になろう▲寺内總督が鐵道急設に熱心だとは山縣總監の話しだ、若し本當なら耳寄りの事だ▲穀物運搬の事で大阪商船が社外船に敗けたとは愉快な事だ、兎角獨占者はブツ倒すべしだ▲過日來問題になつて居る恩賜公債賣買の事は其落附くサキは知れ切つてる、併し併合許で本物の下らぬ中に賣買とはあまりに氣早い事だ、まあ〳〵ゆつくりハチクが良い▲天候寒烈を極め愈ゼロになつた、併し勿驚室々たる先生で零度以下の腦髓が攫らある。

●東拓總裁令姉の訃 目下東上中なる東拓總裁宇佐川男爵は郷里山口に於ける令姉の訃に接し去る十日同地に急行したるを以て歸任は數日を延期

公人私人

△西郷茂夫(總督府判事)十一日釜原より入京(佐藤旅館に投宿)
△秋本豐之進(平壤府尹)十一日午前釜山より入京山本旅館へ
△藤島宇太(ヨカイナタイムス記者)十一日釜山より入京山本へ
▲中村光吉(韓銀平壤支店長)同平壤行
▲岡十郎(東洋捕鯨會社長)同釜山行
▲楠秀太郎(太平生命取締役)同上釜山

▼仁川港船舶出入▼
▲秀吉丸 十三日大阪より入港
▲信濃川丸 同 大阪より入港
▲漢城丸 同 芝罘より入港
▲漢城丸 同 横濱へ向出港

▼大阪期米▼
▲前場● 十二月寄十四圓六十五錢止六十五錢▲一月寄七十...七十八錢
▲後場 二月寄十五圓〇三錢止十五圓〇二錢▲十二月寄十四圓六十四錢▲一月寄六十七錢▲二月寄十五圓〇二錢

▼仁川米豆取引▼
▲前場● 十二、一月寄出來不申▲二月寄九圓七十八錢▲最高七十八錢▲最低七十三錢
▲後場 ▲十二一月寄出來不申▲二月寄九圓七十二錢▲最高七十六錢▲最低七十二錢▲七十五錢止

相場電報 (十二日)
(明治町西村支店著電)

▲大阪株式(二月限) (前場) 三八、一〇 三八、〇〇 (後場) 三八、〇〇 三七、〇〇
▲神戸客 電鐵 引

▲京坂同	五九、六〇	五九、三〇
▲電鐵同	五九、六〇	五九、〇〇
▲鐘淵同	一〇四、四〇	一〇四、二〇
▲紡績同	一〇四、六〇	一〇四、二〇
▲日本同	九七、六〇	九七、五〇
▲郵船同	九七、六〇	九七、九〇
▲東京同	一三三、九〇	一三一、四〇
▲株新同	一三三、六〇	一三一、二〇

▲大阪株式同	一四一、八〇	一四〇、九〇
同	(不明)	一四〇、四〇
▲同直取引同	一四〇、六〇	一三九、六〇
同	一四〇、〇〇	一四〇、〇〇



家庭 貞女の恩報じ
▽賊じて好やら悪いやら

先頃太平町一丁目に新聞雜誌縦覽所を開業せしものあり當時新聞紙上にも廣告し居りしに僅々一ケ月過つか經たぬに閉所せしには何か仔細なくては叶はじと元來物好きな探報子あれかこれかと探り見たるに聞き捨てならぬ問題てそあれ如何に所謂朝鮮なりとは云へ餘りに薄情の致し方夫れも朝鮮にて結婚したのなら兎に角夫婦は二世との盟誓しき日本内地より手に手を取りて渡鮮せしものなるに於てをやだ、と許りでは事情御存じなき讀者に譯の判らう筈なければ聞き知りましたる一條を筆に託して言上仕らんに抑々彼の家の經營名儀人と云ふは岐阜縣不破郡岩手村の生れ竹中吉助の女房よし(二十一)なる頗るの高襟女なるが夫婦或る夜の寢物語りの末が此のまゝ故郷岩手の村外れ禮那寺の土と朽ち果てんことは殘念なり聞けば朝鮮と云ふ處は濡手で粟の儲けがあると人の噂さ一ト奮發せざる可らずと相談一決に及んで資金として一二百餘圓を懐にし渡鮮したるは本年六月中旬の事にて一先づ明治町二丁目に富士屋旅館と云ふに下宿し扨て一攫千金の事業には何がよからんと諸所を視察して見たるも何うも思案に能はぬより宿屋の主人に望みの程を打ち明け善い分別もないものかと相談に及びしに主人の曰く然らば云ふ稼業が御座れば貴郎さんにれ勸へ申す迄もなく拙者が遠うに致します殊には資金とても僅に二百や三百では事業なぞとは以ての外と頼もしかつねご運の當然の主人の話しに扨は左樣かと一度は落膽せしも其の儀では何うにもならぬことゝて一生の智慧を絞り出しランビキに掛けた結果前記の箇所に百八十餘圓を投じ前記の如き稼業を創めしが何事も創業當時と云ふものは思ふ如に行かぬものにて忽ち五十餘圓の食ひ込みとなり如何はせんと思ふ内開業當時よりの懇親となりし朝鮮人にて某署の巡査何口牛次郎とか馬太郎とか云ふ人如何なる者へのありてか竹中の困難せるを知るや萬一金が入用だつたら百や二百は何時でも用達てると申し入れしにぞ開いた口へ牡丹餅と夫婦の喜び一方ならず然らば同縣人の誼にて何卒五十圓か程拜借致たしとて芳子の名義にて借用し營業を持ち續けしも猶ほ思ふ如く行かぬ更らに二十圓を投せし事遂に失敗に終りしより夫婦相談の上芳子は世話する人ありて、有吉長官の邸に、上女中奉公にとて立ち出でたるは九月中旬の事なりき然れば吉助は妻も下女奉公せしことなれば何か適當の職を得んと奔走しながらも奉公に出せし妻の身を案じ居りしに加かも奉公にとて立ち出でたる芳子の方よりは其の後何んの便りもなきにぞ何うして邸と案じた末有吉長官邸に芳子を尋ねたるに左樣女は居らぬとの事に吉助驚くまいことか所謂顚動仰天し不都合女奴と血眼になつた探した甲斐ありて南山町二丁目に一家を構へて居ると知れたるより嬉し喜んで一足飛びに行つて見るとコワンモ如何にコワ如何に此れがホントの豈に圖らんやで其所の主人は獨身者の親切者彼の某署の巡査馬太郎なりければ吉助腰を拔かして仕舞ひ其の不都合を詰りしに芳子は一向平氣の平左で有吉さん處は六づ箇敷到底勤まり相にもないので見合せ度なりし然らばとて一旦アゝして前さんとも相談の上覺悟して出たものが厭になつたから歸りましたと小兒ぢやあるまいし幾何亭主の前さんの前でも歸り憎く思案に暮れて居る處へ折り善く通り蒐られたのが所夫も知つて居られる此所の主人馬太郎殿仔細を聞いて左樣言ふ譯けなら僕か所を助けて與れ相當の給料も遣らうと顯ふてもない御親切に斯うやらでれ世話になつてゐる次第万一彼の時馬太郎殿が通り蒐つて救つて下さらずばヒヨツとしたら私は不了見を起して飛んだ事になつて居たかも知れぬ夫れを思ふと馬太郎殿は私の爲めに命の親良人からもヨークれ禮を仰云いよね……就いては貴許は一時歸省して私が馬五郎殿に對し前の借用金七十圓と今度受けた御恩の萬分一を報じて歸るを樂しみに浮氣をせずと待つてゝ頂戴なと高飛車に出られて吉助一言もなく云ふがまゝに金三十圓の旅費を貰ふて追ひ返されにける、けるほどにさる程に其の後は誰れに遠慮もなく芳子は、馬太郎殿とやらに盛んに御恩報じに及んで居るとは妙に感心な貞女なり

職人の亂暴
青坡監獄建築從業 ▽下請業者は逃亡

青坡監獄敷地工事を本年四月京城龍城組に於て請負ひ之れを龍山元町三丁目土木請負業今村久泰郎なるもの下請となり工事從事中成効の見込なく本年七月頃レール其他諸材料を放棄し馬山方面に逃走せり然るに今村が工事從事中使役せる福井縣南條郡杣山村字阿久利村當時京城青坡居住の平民大工職赤澤慶一(三九)京都府紀伊郡上鳥羽村十七番地當時赤澤方同居平民同職田中丑松(三)福岡縣八女郡星野村字上小路當時京城青坡四十三統三戸居住土方職原口鐵吉(二三)山口縣佐波郡出雲村字鋤三五六番地當時赤澤方同居栗屬淺吉(二二)愛媛縣北宇和郡吉田村字是延二十五番地平民鍛冶職前家市太郎(二九)等は今村より賃金の仕拂を受けざる内に今村が逃走せるに依り留守番人に竹中岩藏(三五)永谷序一(三〇)の二名に對し始末を迫るうち工事は濱城組に於て續行するに至りしを以て還留品レール其他の材料を取らんと竹中等に相談せしに彼等は應せず本月二三日頃今村の爲め何所となく運搬せしにより右赤澤慶一は大に憤慨し田中外二名と談合の上竹中永谷等の宅に至り其不法を詰責せしに竹中等は今村の諸道具を運搬せるは本人の依頼により爲したるものなれば君等の干渉を受くる必要なしと主張せし爲め赤澤外三名は本月十一日午後一時頃棍棒金棒等の兇器を携へ竹中宅に押入りこれ迄の不都合を解決せねんとて毆打し疾病休業五日を要する負傷をなさしめ且硝子障子三枚外二十三點の器物を破棄し其上此家迄放火すべしと暴言を吐き一大騒動を演じつゝあるを附近に住む龍山署の巡査現場に馳付け之れを取押へ本署に引致し司法主任の手にて傷害罪並びに器物毀棄として取調中なりと

●冬季と死産兒 民團役所員の談に依れば近來氣候の關係にや特に死産兒の屆出多しと云へるが此今は寒氣殊に酷烈なれば懐姙者は特別の注意を拂ふ可く殊に初産婦の如きは假令三四ヶ月の者にても此際充分の攝生を爲し酷寒にアテられざるやう留意したきものなりと云へり

●日丸魚市場披露宴 日丸魚市場が旭町に移轉せし事は既報の如くなるが同市場支配人林久太郎氏は新築落成祝として市場に助力せる各有志及新聞記者並に仲買人等を案內十日午後五時同市場に宴を開きたり新築家屋は七十餘坪にして內營業場所は五十餘坪二階造りの二十餘坪は事務所及住宅になしあるが有志者二十餘人を住宅の方二階に九十餘人の仲買人等は營業場所に開宴林支配人の挨拶小川勝平氏の答辭猶ほ仲買人等に對する小川勝平、池田長次郎兩氏の演說等あり井門淸水廉光昇樓開進亭等の紅裙酒間を斡旋し互に腕くらべ等ありて非常の盛會なりし

●火に當つて天罰 去る十日午後零時二十分頃一人の男青坡派出所に入り來り火鉢に手をかざしたるを以て詰合の巡査は何用なるやと尋ねしに自分は憲兵なりと稱するも擧動如何にも不審の點ありしを以て嚴重に取調べたる結果原籍山口縣山口町字金古曾町百四十八番地當時京城南山町一丁目井上方に居住する士族安澤善吾(三)と云ふも近來寒さへ堪ぬるまゝ故意に立寄りたるものなるが同人は窃盜前科二犯の者にして當日桃山遊廓藥兒の戻りなる由者にして他に余罪ある見込あり終に官名詐稱の廉を以て拘留に處せられ余罪捜査中なりと

●醉つて件の如し 廣島縣那賀郡吉田村十八番地平民當時京城花園町五十八番戶居留東洋拓殖會社小使職井淸太郎(三五)は去る十一日午前四十分頃泥醉して本町一丁目裏通村田商店前街路を徘徊し通行の日鮮人に對し亂暴を働き交通上一方ならぬ妨害をなし且附近の安眠を害する等甚だしき不都合ありしを以て南部署に引致せられ覺醒の上深く說諭を受け放還せられたり

●遊んだが因果か 自稱東京府豐多摩郡柏木村淀橋町目下居住不定の大工業新井喜太郎(三五)は常に一定の仕所職業なく各所を放浪し居り去る十日午後零時永樂町邊を徘徊しつゝありしが南部警察に於て之れを引致し拘留三日に處せられたり

●人車牛車に衝突 龍山坊土亭里牛車夫甲基鉉(三)去る十日午後九時頃本町七丁目十二番地々先街路を本町六丁目より木炭を積み運搬通行中大和町一丁目一二六番地京城日報社長抱車夫加藤仙太郎(廿)が空車を牽き牛車の後より通行せんとする際衝突して車体を破損せしを以て損害金一圓五十錢を被害者に仕拂ひ事濟みたり

●又々鮮人の凍死 十一日午前七時三十分頃京城西部盤松坊尾洞百九統一戶祖風奎方簷下に於て住居の不定の乞食李姓女(四〇)は數日來の酉寒に堪へ兼ね且つ脚氣衝心を起し去る十一日午前七時三十分頃變死せしに依り西大門分署警官の檢視を終へ死体は統主に埋葬せしめたりと

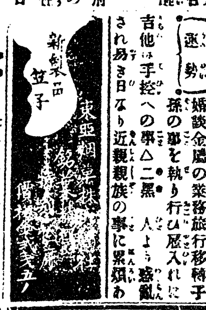
●ヨボナビのボヤ 去る十日午後六時五十分頃南部城外往十里下甘井洞三統三戶李文昌住宅(草屋七間)全燒し同七時五十分鎭火したり損害は約三百圓

●仁川雜事 仁川寺町二丁目料理店都すし事朝永トク方抱 酌婦長崎縣生坂田タツ(十八)は十日午後十一時頃濟町の或る情夫の處に泊りに行き翌朝七時頃歸宅せんとしたる處を巡回の警官に認められ淫賣の廉を以て告發せらる
▲敷島一昨夜の遊客は四十二人にして百七十三圓七十五錢の散財高

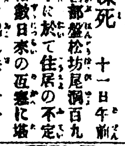
●五雲會素謠例會 來る十八日(日曜日)午前十時より大和町梅の家にて開會番組は
敦盛(シテ酒井氏、ツレ野村氏、ツレ兒島氏、ワキ寺岡氏)千手(シテ上郡氏、ツレ水越氏、ワキ武川氏)鉢木(シテ吉住氏、ツレ境氏、ワキ島氏)自然居士(シテ島田氏、ツレ田中氏、ワキ小松氏)船辨慶(シテ池田氏、判官霜島氏、ツレ河內氏、ワキ河合光氏)

●日宗婦人會 旭町三丁目日蓮宗護國寺に於て十三日日宗婦人會第三回開會正午十二時より一時迄讃歎式一時より三時迄法話辯士數名出席三時より四時迄三遊亭千朝の修身講談あり因に同會は一般に歡迎せられ益々隆盛に向ふ由なりと

●今日の運勢 ●十二月十二日(舊十一月十日)七赤友引辛亥 閉△一白 婚談金融の業務旅行移轉手孫の事を執り行ひ居入れに吉他は手控への事△二黑 人より惑亂され易き日なり近親親族の事に累類あり△三碧 貸借取引賈見込遂び來建築伐林業に吉△四綠 婚談連盟集團組合の事に吉他は手控への事盜難遺失の恐れあり△五黃 貸借保證受印裏書及新事旅行不動產上の事見合すべし△六白 取引賈賈進んで吉旅行移轉轉業の方針替模樣替遂行差支なし他は見合すべし△七赤 新事婚談委託談議訂約見込なし△八白 他人の世話事多き日なり移轉旅行轉業開店起業に忌む△九紫 諸事手控への事最も旅行出帆貸借保證裏書起業開店に忌む(本町五丁目三一館和顏)



●天氣豫報(自十二日午後六時 至十三日午後六時) 北の風晴れ



●東拓總裁令姉の訃 目下東上中なる東拓總裁宇佐川男爵は郷里山口に於ける令姉の訃に接し去る十日同地に急行したるを以て歸任は數日を延期

●諸公債諸株券 現物賣買
迅速確實に御取扱可申候兼業
弐製洋服御下賞 諸官衙御用達
京城本町三丁目 大阪野村德七代理店
田中友吉商店
電話九二九 銀(ク)

弊店の蝶印バリカンは理髮業者のみならず外婦人御小兒の御方にも容易に御用が出來る輕便なる新式毛苅器械にして切れ味宜く一々品物を試驗の上御送付候萬一切れ味惡しき時は即時に御引替申候



一號二圓五十錢、二號金二圓、三號一圓三十錢、四號金一圓、送料二十丁迄廿五錢
到る處ノ著名の打刄物販賣店に有り最寄にて御購求を乞ふ
和洋打刄物、歐米輸入鐵器、建築用金物、鐵管、鐵山用器具、園藝及農具其他
(金)
東京日本橋通油町
湯淺七左衛門



東京櫻組
定價表型錄寸法用紙御申越次第送呈仕候
東京市京橋區八丁堀舩松町一丁目一番地
合資會社 櫻組製靴部
電話本局三一六一、三一六一四番 振替口座東京一六五二七

●内科小兒科
●外科花柳病
入院隨意
京城旭町三丁目
十全病院
電話七三七番

樞密顧問官兼議定官文學博士男爵細川潤次郎閣下題辭
帝國教育會長貴族院議員男爵辻新次閣下題辭
東京高等商業學校長事務取扱澤柳政太郎閣下序文
神戸高等商業學校長水島鐵也閣下序文
米國名譽法學博士エール大學博言學士 谷郁一
米國名譽文學博士神戸高等商業學校教授 山口造酒
共編

新譯英和中辭林

總クロース 上製紙數千七百餘頁 語數約七萬餘 精巧木版五百七十餘挿入

本書は著者が多年の心血を灑ぎスタンダード及センチユリー兩辭書により傍らにブスター大辭書を參酌し譯出せる者にして其特色たるや新字豐富にして普通語を網羅し譯解簡明なり應用の範圍頗る廣く植字の配置印刷の鮮明と相待つて搜索の便利なる他に其比を見ず熟語慣用句はイタリツク字體を以て表はし附錄には英文法概要を摘載して名詞形容詞動詞の變化を示し又是等に伴ふ定の前置詞を指定して作文上の便益を與ふ又携帶に最も便なれば學生諸君の座右に必ず一部を備ふべき寶典也

特價提供
五萬部限 特價壹圓廿錢 送料金八錢 滿鮮臺樺十二錢
内容見本御申込次第進呈す
洋裝全一冊 正價一圓五十錢

發兌 東京日本橋區本石町三丁目 振替東京壹貳五五〇番 合資會社 六盟館
特約 京城本町二丁目 振替京城百十五番 日韓書房



義齒術全般
京城旭町一丁目
齋藤英壽
電話一四一四番



朝鮮名産品各種
製造發賣元
京城本町三丁目
海市商會
電話二五〇番
振替口座朝鮮四八番

朝鮮土産品は種々取揃へ有之候間何時にても御用命次第御申越次第見本持參可仕候地方御注文の方は定價表進呈可申候

▲開業の自祝として大勉強仕候▼
あけぼの事
龍山●●●桃山遊廓
和歌浦樓
(電話三四二番)
各位の御引立に依り左記に開業仕候間にぎ〳〵敷御來車被下度奉願候也



本舖 日本大阪 高橋盛大堂
代理店 京城本町五丁目 木下大盛堂 同南大門三丁目 新井藥房
價 三日分 廿錢 七日分 四十錢 十四日分 七十五錢
到る所の藥店に販賣す

營業科目
和洋紙類 印刷附屬品 印刷インキ 和洋書籍 防腐アレン 穀物食鹽 燃料類
藤田合名會社
本社 京城明治町二丁目 電話(三〇番)
出張所 東京日本橋區新右衞門町一丁目 電話新橋三六九二番
(販賣特約店一覽は印刷不鮮明)

●諸公債諸株券

瓦斯コークス販賣
京城南山町三丁目百十四番戸
酒井組
電話一一四九番

移轉廣告
事務所新築落成候に付左記へ移轉仕候
黄金町十八銀行支店向小路入(電話三五四)
辯護士 岩田仙宗



◉次亞燐は各藥店に販賣せり
大阪道修町二丁目 製劑師
本舖 小西久兵衞

◉貸金 旭町二ノ一五別府組車帳場筋向小路 高橋
有給者にて極秘密に低利融通可申候

質 本町一丁目裏通り支那領事館筋
南商店
電話一〇九六番



古着、古道具
諸雜貨、疊建具
賣買處
京城永樂町二丁目
五十競賣所
電話一四〇七番

土地建物鑛山株券賣買
小林藤商店
貸家管理の囑托を受く
一百町餘の果樹園適地買入たし
田、畓、山、金銀、黑鉛鑛買たし
商品其他擔保に貸金す
市外田畓山林未墾地鑛山賣物あり
市内家屋賣物數多あり
京城明治町三丁目 電話六五五

一割引 (書籍新聞雜誌ヲ除ク)
十二月三十一日迄

弊店開業滿廿年ノ祝意ヲ表スル爲メ左記之通京仁間本支店ニ於テ大賣出シヲ開始致候間何卒不拘多少ニ倍舊御引立ノ程奉願候

文房具和洋紙 測量製圖諸機械 度量衡器輸入販賣
京城本町四丁目
町田商店
電話二〇九番・一六九四番 振替口座京城九七番

船來雜貨 御小賣
同本町三丁目
町田支店
電話一二六番 振替口座京城九九番
(御地方ヨリノ御注文ハ代金引替又ハ振替貯金ニテ願上候)

文房具和洋雜貨 諸帳簿和洋紙類 書籍新聞雜誌 度量衡器輸入販賣
仁川本町二丁目
町田本店
電話四五番 振替口座仁川九三番

左記各店ハ前記割引以外ニ候得共店員一同一層大車輪ノ勉強ヲ以テ貴需ニ應ジ可申候間何卒不相變御愛顧之程奉願候
殊ニ臨時廉賣部ハ開業滿廿年紀念トシテ特設シタルモノニ付破格ノ大割引ヲナシ見切物モ澤山取揃ヘ居候

書籍新聞雜誌大取次 文林堂
京城本町四丁目
町田書籍部
同 新聞部
電話二〇九番・一六九四番 振替口座京一〇四番

日用雜貨類大販賣
同本町二丁目(舊文林堂跡)
町田臨時廉賣部

諸新聞大取次
龍山鍛冶練兵丁號官舍前
文林堂支店
電話一七五番

シヤツ類新提供

弊店特約製造元ニ於テ本年ハ器械増設ノ結果生産過剩トナリ當店ヘモ多數ノ送荷ヲ受ケ明年ニ持越スノ恐有之此ノ際果斷ノ處置トシテ一切ノ利益ヲ放棄シシヤツ類ニ限リ本年末迄特ニ原價ヲ以テ大賣出致候間何卒一應御試シ旁々御來店ノ程奉願候

販賣
京城本町三丁目 町田支店
同本町二丁目(舊文林堂跡) 町田臨時廉賣部
仁川本町二丁目 町田本店